

(様式2)新規評価シート

農政部 農地整備課

事業名	県営畑地帯総合土地改良事業		路河川名等	—		
事業毎の通番	2	市町村名	南牧村	箇所名(ふりがな)	南牧野辺山(みなみまきのべやま)	
事業目的	本地区は、畑地かんがい施設の未整備による野菜の収量低下、排水不良による品質低下、農道幅員の狭幅による作物輸送の支障等が発生している。 このため、畑地かんがい施設、排水路、農道の整備を一体的に行い、全国有数の高品質な葉物野菜の供給産地の生産基盤を支え、担い手農家への農地集積により生産性の向上を図ることを目的とする。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進	事業実施の根拠法令等	土地改良法			
関連する事業、計画等	第3期長野県食と農業農村振興計画、第8次長野県土地改良長期計画、南牧村総合戦略					
保全対象・範囲 受益対象・範囲	受益面積:368ha					
着手年度	2019年度	事業期間	7年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2025年度	費用対効果	5.3	国庫	その他 県債 一般財源	
全体事業内容(主な工種)	畑地かんがい施設 A=257.5ha 頭首工 N=1箇所 用排水路工 L=4.0km 農道工 L=6.4km		1,840,000	1,012,000	322,000 455,400 50,600	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	・作物の生産性向上【畑地かんがい施設整備によるレタス等の収量増加】 ・走行経費の節減【農道の整備によるレタス等の収穫物や生産資材等の輸送時間の短縮】				
	間接的効果(定量的・定性的)	・担い手農家への農地集積の促進 ・産地ブランド力の維持 ・良好な農村景観の保全				
評価の視点	必要性	○受益戸数：275戸 ○受益農地面積：368ha ○農地利用集積率(目標値)：75% ○高収益作物計画生産額：レタス、キャベツ、白菜の割合86%			評価	A
	重要性	○畑かんの破管数、設備の故障数：なし ○関連計画、重要施策との整合：第3期長野県食と農業農村振興計画、第8次長野県土地改良長期計画、南牧村総合戦略 ○人・農地プラン：事業実施に伴う農地集積計画に併せてプランの見直しを行う予定 ○地域指定：特定農山村、振興山村 ○日本型直接支払制度：2組織(広瀬、板橋) ○耕作放棄地の解消：耕作放棄地なし			評価	A
	効率性	○費用対効果(B/C)：5.3 ○事業期間：7年間(2019~2025) ○工法等の比較検討：頭首工(溪流取水)			評価	A
	緊急性	○近年の自然災害：例年、降雨による河川内の土砂堆積により取水が困難となる。農地では湛水被害が発生 ○道路の状況：機械の大型化に伴う道路改良及び農道の新設 ○用水状況：頭首工の新設、畑かん施設の新設、老朽化に伴う更新 ○農業就業人口に占める高齢者の割合：50%未満			評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有：地域懇談会等により、地域住民も含め受益者全員に説明済み。 ○地域の取り組み：地元区毎に要望意見をとりまとめ、地区懇談会で村に対して要望 ○地域の合意形成：事業目的や事業概要について合意形成済み ○住民との協働：多面的機能支払活動として維持管理に地域住民が参加			評価	A
	所管課意見	本地区は、全国有数の高原野菜の産地であるが、畑地かんがい施設や農道が未整備のため、早期に着手する必要がある。			採択状況	○
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。					
総合評価	A					

【位置図、平面図、構造図等】

■ 受益地
■ 農道整備
■ 用排水路整備

南牧村役場
野辺山駅
国道141号

現況 安定取水困難な頭首工

降雨後の土砂堆積により、安定した取水ができない。

取水口

▶ 生産量の低下、維持管理費増大

現況 【機械の大型化に対応していない農道】

▶ 輸送に時間がかかる(コスト大)

現況 【豪雨による湛水被害】

▶ 生産量の低下

整備方針 溪流取水

土砂堆積による取水への影響が少なく、維持管理労力も軽減される。

整備方針 【農道の拡幅改良】

拡幅に伴い大型トラクターの走行が可能
→1回に大量の野菜の運搬が可能
→輸送コストの節減

整備方針 【排水路の断面拡幅】

体型標準
600*600型~
1,500*1,500型

事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本地区は、レタス、はくさい、キャベツ等の高原野菜の産地であるが、畑地かんがい施設の未整備区域では安定した生産に支障が生じている。また、農道は幅員が狭く、農業機械の大型化に伴う作物輸送の支障となっている。さらに、排水路の断面不足及び排水不良により、冠水に伴う商品価値の低下等の被害が発生している。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	効率的に高品質な野菜を生産するための基盤整備は、地区懇談会を通じて村へ要望されている。特に農道整備は、輸送コスト削減のみならず、安全な輸送を行う上でも強く要望されている。これを受けて、南牧村はH29年度から事業化に向けた調査に着手した。
③事業説明等の経緯	H29年度から、村により区(6組織)、農業者実行委員会(6組織)、水利組合(3組織)、耕作者・土地所有者(510名)に対して事業説明を実施しており、概ね合意形成は図られている。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	第3期長野県食と農業農村振興計画、第8次土地改良長期計画、南牧村総合戦略に基づき、葉物野菜の高品質化を目的とした畑地かんがい施設や機械の大型化に対応した農道等を一体的に整備し、「稼ぐ農業」を実現する。
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	溪流である杉添川の頭首工について、周辺環境や魚類に配慮した工法となるよう検討している。また、下流河川への濁水流出を防ぐため、施工中は濁水防止処理を行うとともに、排出ガス対策型機械を使用する。
⑥地域活性化への影響と配慮	畑地かんがい施設、農道、用排水路の整備により、農業の生産性が向上し、農業経営の近代化・安定化が図られる。
⑦その他	【過去の事業評価地区意見の反映】 環境配慮:頭首工など、設計段階から魚類等生態系に配慮 ソフト対策:事業を契機とした担い手生産者への農地集積を促進

事業代表地点の緯度経度
北緯:N 36° 1' 15"
東経:E 138° 29' 31"

(様式2)新規評価シート

農政部 農地整備課

事業名	県営畑地帯総合土地改良事業		路河川名等	—		
事業毎の通番	3	市町村名	塩尻市	箇所名(ふりがな)	洗馬妙義(せばみょうぎ)	
事業目的	本地区の施設は、築造から約40年が経過し、老朽化による破管、不安定な圧力によるポンプの故障など維持管理に大変苦慮しているため、施設の更新とともに、加圧散水方式から自然圧散水方式への転換を行い、農業用水の安定供給と維持管理費の低減を図ることを目的とする。 また、農道が未整備のため、路面排水等が畑へ侵入し作物の生育等に支障を来していることから、水路兼用農道を整備することで、作物生産性の向上を図ることを目的とする。 農業生産基盤を整えることにより、担い手への農地集積を促進し競争力のある農業経営を推進する。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進	事業実施の根拠法令等	土地改良法			
関連する事業、計画等	第3期長野県食と農業農村振興計画、第8次長野県土地改良長期計画、第5次塩尻市総合計画					
保全対象・範囲 受益対象・範囲	受益面積 =115ha					
着手年度	2019年度	事業期間	6年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2023年度	費用対効果	1.3	国庫	その他 県債 一般財源	
全体事業内容(主な工種)	畑地かんがい施設工A=115ha 揚水機場1か所 加圧機場1か所 農道工 L=5km		1,263,000	631,500	284,175 312,000 35,325	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	作物の生産性向上[畑地かんがい施設の更新によるレタス、キャベツ等の生産量と品質の維持] 維持管理費節減[管路の補修費用削減]、走行経費節減[農道の整備による営農時間や輸送時間の短縮]				
	間接的効果(定量的・定性的)	耕作放棄地の発生抑制[用水の安定供給による耕作放棄地の発生抑制] 産地ブランド力の維持[高品質なレタス、キャベツ等の安定生産]、良好な景観の保全[耕作放棄の発生防止]				
評価の視点	必要性	○受益戸数 : 304戸 ○受益農地面積 : 115ha ○農地利用集積率(目標値) : 57.5% ○高収益作物計画生産額 : 100%			評価	A
	重要性	○畑地の破管数 : 近年5年で30回 ○関連計画、重要施策との関連 : 第3期長野県食と農業農村振興計画、第8次長野県土地改良長期計画、第5次塩尻市総合計画 ○人・農地プラン : H29.6見直し ○地域指定 : なし ○日本型直接支払制度 : 取組あり(塩尻奈良井川地域農地を守る会) ○耕作放棄地の解消 : 耕作放棄地なし			評価	A
	効率性	○費用便益比(B/C) : 1.3 ○事業期間 : 5年間(2019~2023) ○工法等の比較検討 : 自然圧散水方式の検討、配管計画の検討			評価	A
	緊急性	○近年の自然災害 : 農地の浸水被害 2回(H27) ○道路の状況 : 未改良 ○用水の状況 : 老朽化(30~40年経過)、一部の既設管が石綿管 ○農業就業人口に占める高齢者の割合 : 70%			評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有 : 地区総会や回覧板により説明済み ○地域の取り組み : 準備委員会の設立による積極的な取組 ○地域の合意形成 : 説明会により合意形成済み ○住民との協働 : 地区組合員による維持管理を実施			評価	A
所管課意見	本地区は、レタス、キャベツなど高収益作物を栽培する産地であるが、畑地かんがい施設が老朽化しているとともに、農道が未整備のため、早急に着手する必要がある。			採択状況	総合評価	○ A
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。					

凡例

受益地	
改修(管水路)	
改修(排水路)	
改修(農道)	
揚水機場・加圧機場	
加圧機場(廃止)	
国営右岸上段幹線	
県道・主要地方道	
広域農道	
河川	
集出荷場	

位置図

事業概要説明図表

破管の状況 農道の状況

事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本地区の芦ノ田、元町・上組工区は、昭和50年代の国営事業により梓川を水源とする幹線水路が整備され、昭和53年~平成4年の県営事業等により畑地かんがい施設を整備したが、約40年が経過し破管やポンプの故障など維持管理費が増加している。長崎原工区は、沢水を水源として畑地かんがい施設が整備されているが、用水量が不安定である。農道は、未整備のため排水が畑へ侵入し、作物の生育や営農に支障を来している。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	施設管理者である中信平右岸土地改良区は、平成25年度から更新整備について検討し、受益者の意向調査を行ったうえで、平成28年6月に準備委員会を設立、同年8月2日に中信平右岸土地改良区と準備委員会から塩尻市へ事業を要望。計画的な更新整備について、地元説明会を複数回実施し地域の理解と協力を得ている。
③事業説明等の経緯	H27年12月~H28年5月:「更新整備の賛否について」の第1回意向調査を実施(無記名) H28年11月~H28年12月:地元説明会の開催(全4回) H28年12月:全組合員を対象とした更新事業に関する第2回意向調査を実施(記名式) H30年2月中:地元説明会開催予定(全4回)・地区(常会)総会での事業説明(4ヶ所)と回覧板の予定 H28年6月~H30年1月:準備委員会等による検討会を複数回実施
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	第3期長野県食と農業農村振興計画、第8次長野県土地改良長期計画、第5次塩尻市総合計画に基づき、収益性を高めるための農地の整備、効率的な生産を支える農道の整備を推進。
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	排水対策により土砂の流出を防止する。 工事期間中、重機の振動・騒音・排出ガス対策として、早朝及び夜間の作業を自粛し、排出ガス対策型の機械を使用する。
⑥地域活性化への影響と配慮	用水の安定供給と維持管理費の節減により、収益性の高い農産物が安定生産され、産地ブランド力が維持される。また、耕作放棄地の発生を抑制することで良好な農村景観が保全される。
⑦その他	【過去の事業評価地区意見の反映】 ソフト対策:事業を契機とした担い手生産者への農地集積を促進

事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 07' 06.0"
	東経:E 137° 54' 20.5"

(様式2)新規評価シート

農政部 農地整備課

事業名		県営畑地帯総合土地改良		路河川名等		—		
事業毎の通番		3	市町村名	小海町	箇所名(ふりがな)	小海原(こうみはら)		
事業概要	事業目的	本地区は、冷涼な気候を活かした高原野菜の産地として発展してきたが、昭和46～47年度に整備された幹線管路及び畑地かんがい施設について、近年、老朽化による破損や漏水が生じている。また、近年の農業機械の大型化に伴い、既存農道のすれ違いが困難になり、作物や資材の輸送に支障を来している。そのため、本事業により施設の改修・整備を行い、併せて担い手への農地の集約化を図ることにより、高品質な葉物野菜の生産を将来に向けて継続できる体制を構築する。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進		事業実施の根拠法令等	土地改良法			
	関連する事業、計画等	第3期長野県食と農業農村振興計画、第8次長野県土地改良長期計画、小海町まち・ひと・しごと創生総合戦略						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	受益面積：98ha						
	着手年度	2019年度	事業期間	8年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
完成年度(見込み)	2026年度	費用対効果	2.9	国庫	その他	県債	一般財源	
全体事業内容(主な工種)	用水路工(管路) L=2.9km 排水路工 L=0.3km 畑地かんがい工 A=82ha 農道工 L=1.0km			750,000	412,500	131,250	185,625	20,625
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	作物の生産性向上 農道の走行経費の節減 担い手への農地集積の促進						
	間接的効果(定量的・定性的)	災害の防止						
評価の視点	必要性	○受益対象 受益戸数：164戸 ○受益対象 受益農地面積：98ha ○営農規模 農地利用集積率(目標値)：89% ○高収益作物：レタス、はくさい等					評価	A
	重要性	○機能低下 畑地の破管数、設備の故障数：5箇所 ○位置付け 関連計画、重要施策との整合：第3期長野県食と農業農村振興計画、第8次長野県土地改良長期計画 ○位置づけ 人・農地プラン：H25年2月策定、H30年2月見直し ○地元組織 日本型直接支払制度：多面的機能支払事業の取組あり(小海原水利耕作組合)					評価	A
	効率性	○費用対効果(B/C)：2.9 ○事業期間：8年間 ○工法等の比較検討：あり(畑地かんがい施設計画)					評価	A
	緊急性	○近年の自然災害：干ばつによる水不足、突発事故による用水供給不良 ○道路の状況：老朽化及び狭幅(一部未改良有) ○用水状況：施設老朽化 ○担い手不足：農業集約人口に占める高齢者の割合 60% (小海町)					評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有：関係者を中心に周知 ○地域の取り組み：地域からの要望あり ○地域の合意形成：小海原水利組合との合意形成が図られている ○住民との協働：多面的支払事業の組織による畑かん施設の長寿命化活動					評価	A
	所管課意見	高原野菜の産地として確立した地区であるが、畑地かんがい施設等が老朽化しているため、早期に更新整備を行う必要がある。			採択状況	総合評価		A
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。							

【位置図、平面図、構造図等】 **位置図**

事業概要説明図表

水管橋の改修	畑地かんがい施設の更新	農道の改修(拡幅及び待避所)	
<p>毎年、破管事故が発生 給水施設が古く、交換部品がないため維持管理に苦慮</p> <p>幅員が狭く大型農業機械の通行に支障</p>			
①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	昭和46～47年度に水田転換特別対策事業により実施した管水路及び畑かん施設が、近年老朽化し、破損した箇所から漏水がある。		
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	小海原畑地かんがい組合からは、施設の老朽化により今後の維持管理に対する不安があるため、今回の事業にて早急に対応してほしいとの要望が出ている。		
③事業説明等の経緯	受益者である小海原水利耕作組合では、総会にて近年の破管箇所が増加していることについて報告され、事業実施の調査について了解を得ている。		
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	第3期長野県食と農業農村振興計画、第8次長野県土地改良長期計画、長野県強靱化計画等に基づき、野菜の品質や収量の安定確保を図るための畑地かんがい施設や、機械の大型化に対応した農道等を総合的に整備し、「稼ぐ農業」を実現する。		
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	工事の際には景観や環境への影響が最小限になるようし、重機の騒音、振動、排気ガス等に配慮する。		
⑥地域活性化への影響と配慮	施設の改修を行うことにより維持管理の軽減が図られるとともに、農業用水が適切に確保され受益地内の農業生産が一層盛んになる。		
⑦その他	【過去の事業評価地区の意見の反映】 コスト縮減：比較検討により経済的な工法を採用する。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 3' 29" 東経:E 138° 28' 08"